明治四十二年七月九日（金曜日） 第百五十六號（一）
明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可 （日刊） 日曜及祭日の翌日休刊

# 京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

## 人物管見（三）

片々生

▲桂太郎と伊東巳代治 今日では桂の勢力は頗る強大にして殆ど並ぶものなしと云ふべき勢いであるが、第一次桂内閣を組織する當時に於ては、桂の勢力も微弱なものであつた、其當時桂は巳代治を軍師として帷幄に招致したのである、否顧問として万事の差圖を頼だのである、故に第一の桂内閣は永田町の伊東邸に於て出來たのである、深夜草木眠り所謂萬籟寂たるとき桂や平田や寺内の腕車は永田町に集つたのである、茲に於て巳代治は得意にならざるを得ない彼は豪然と顧問氣取で總ての差圖をなし其政綱までも作つてやつたのである、然るに桂は唯だ表面に於ては彼を軍師と仰ぎつゝ其實巳代治の行政的手腕を利用したのである、故に内閣組織後も彼の必要時期迄は全く軍師として尊崇の意を拂つて居つた、是れ巳代治の自惚より桂に致されたと云ふより外はないのである。

▲當時閣員撰擇に就て は種々の人物が出たのである其撰擇に困つたのは大藏大臣と外務大臣とであつた、桂も今日のように財政の事は判らず、渡邊國武は伊藤系にして桂の好む所でない、田尻稻次郎は適任であるけれども貫目が足らぬ、種々評定の結果曾禰荒助はドウだろふと言ふ事になると、巳代治は頗から曾禰をけなして、曾禰に財政の事が判るものかと云ふて更に賛成しよふとしなかつたそうである、然るに桂は之を宥めて仕事は次官にさして曾禰は例の不得要領にヌッとして居れば却て利れものを置より安心ならんと頻に説いた、巳代次も外に適當の人物を見出さぬ爲に或は夫れも怪我がなくてよかろふと云ふ事になつたのである、所で是を本人たる曾禰に話すことゝしたが或者は如何に曾禰でも一番の難局たる大藏大臣引受けには躊躇するだろふ、況や財政の事には眞暗であるが故にと所が大違ひ曾禰はドコ迄も曾禰式である。

▲曾禰は平然として引受けた 是に於て桂も巳代治も滿浦も驚いた、加之外務大臣は小村と決定したが小村は當時在外公使たりしを以て小村が歸朝するまで何人か外務を兼攝せねばならぬ、誰彼と云ふて外相兼攝に適任がない、曾禰に話したら或は例によりて平然として引受るだろふ、長い間ではない暫らくの事であるから矢張り事勿れ主義で曾禰に兼攝させるがよかろふ、なまじ中仕事をするものよりも怪我がなくてよかろふと云ふので、亦た之を曾禰に咄すと案の如く平然と引受けた、世人も之には聊か驚かざるを得ない、曾て佛國駐剳公使として頗る無能の評判高く外交的手腕のない彼が外務を兼攝するとは案外である、愈々彼は西郷從道を學ぶのであるなどゝ世評は區々として曾禰の名を高からしめたのである。

## 文苑

●訊問● 高堂

「鰯喰つた口から鯛のたくびア出ませんや イクラ且那が白状しろつと仰つしやつたつてソウでねゑものを、ソウですといふ譯にやア行きませんや權の野郎は血の廻りが鈍いから何んな事を饒舌つたか知らねゑが事の起りやわッしなんですから他の者を責めたつて仕方がありませんや……」と職人体らしい色の淺黒い男が頻りに警官の前に立つて辨解して居る、折柄一人の女が轉ぶが如く其の場へ馳け付けた「熊さん安心なさい、且那之が何よりの證據……」と懷から取り出したは血の附いた手拭男は「うれそれが」と手拭を指示した警官は首を捻つた。

## 俳句

●夕顔十句● 千春

夕顔や飯かご釣りし窓の先き
夕顔や藁屑拾ふて戻る妻
夕顔や米踏む女脛くろき
夕顔や家鴨追ひ〳〵子の戻る
夕顔に飯のこげつく匂ひかな
夕顔や伏家の軒のたらい風呂
夕顔や味淋に醉ひし老夫婦
夕顔の棚よも低し二日月
夕顔や家内揃ひし飯の味

## 新刊紹介

●韓日英新會話 本書は嚢に帝國新聞社長鄭雲復氏の著に係るもの今回訂正改版して完璧を期せしものなり、全頁四百二十一、敍述丁寧容易に解するを得べし（一圓二十錢京城本町二丁目日韓書房發行）

●實業の日本 本號は殆んど澁澤男退隱の記事のみに埋め居れり新渡戸博士の「現代社會觀」は主旨一貫行文雄渾讀者をして感嘆せしめ澁澤男の「余は今後如何なる事業に主力を注がんとするか」の一片は確かに再讀の値あり（十二卷十四號十一錢東京々橋區南紺屋町實業の日本社）

●婦人世界 村井弦齋氏の「夫婦情愛論」は出でゝ益々佳境に入り、山川操子女史の「二十七才にて會津籠城中に實驗せし苦心談」は當も眞に迫り一記者の「三人が命を投げ出して姉の操を取戻した話」は讀んで同情を催さしむ（四卷八號十五錢東京々橋區南紺屋町實業の日本社）

## 佐倉宗吾（百廿七）

眞龍齋貞水講演

そこで門番が燈火を點けて 門「へ、且那ッ」と外へ出すと、其燈火がプッと消ねて仕舞つた 宗「ア、コレ〳〵」又消ねて仕舞つた もう一つ點けろ 門「畏りました」又門番が燈火を點けて外へ出すと、プッと消ねて仕舞ふ 文「また消ねましたか 宗「ア、また消ねた……コレ門番、今一度點けろ 門「また消ねましたか、何卒恐れ入りますが、風が來るんでございませうから、御三人で風を塞いで下さいまし 宗「宜し」そこで宗四郎、文太夫、勝助の三人が、風を防ぐために、袖を翳げて 宗「サア點けろ 門「へ、宜しうございますか」三度目に點けてヒヨイッと出すと、三人の者には見ねないが、中島宗四郎の袖の下から、女の蒼白い首が出て、口を出して蠟燭の火をプッと消した、パッと燈火が消ねると宗四郎がキャッと云つたから門番が眼を眩した、其内に三人が、ウワッと云ふと、もう燈火も何も要らぬ、皆な夢中になつて御屋敷へ立歸り、御歸りと聲を掛けた、御新造のお福様が 福「ハイ、是は且那様御歸り遊ばせ 宗「エー、今戻つた 福「大層御遲くございました 宗「ム、遲つた 福「オヤ〳〵、御召物が大層濡れて居ります 宗「ム、濡れて居るかも知れぬ……ア文太夫、勝助ッ、御苦勞だつた 文「イエ何う致しまして 新「お前達は御苦勞でした、部屋へ引取つて寢て下さい 文「へ 勝「へ 文「且那様御機嫌宜しう 勝「御新造様御機嫌宜しう」二人は部屋へ歸つた 勝「文太夫様ッ 文「何だ勝公 勝「今夜と云ふ今夜は私ア驚きましたが、此様な事もあるだらうと思ひました何うも彼の鹿島口の組立の御牢内の所の前を通ふる度毎に宗五郎どん夫婦が蒼白い顔をして…… 文「此野郎また始めやがる默つて居ろッ 勝「エ、默つて居やうと思ふんでございますが縡ひ思ひ出すんで……實に今夜と云ふ今夜は驚きました、蒼白い顔をして中島様…… 文「止せッ此畜生また其様な事を云ひやがつて、くだらぬ事を云ふな本統に 勝「私だつて云ひ度はありませぬけれども眼の前へ散見つて居ります、尤も余り酷い事をなすつたから此様な事もあるだらう、もう夜が翌れば私は此處の家は御暇でございます此様な化物の出る御屋敷へ居られるものぢやございせね 文「マアそんな臆病な事を云ふな 勝「私ばかり臆病ぢやありませぬ戯談云つちやいけませぬ、時に文太夫様ッ今夜は貴下私の部屋へ御出下さるか私が貴下の方へ行つて寢ることに爲ませうか 文「然うさな…… 勝「孰方にしませう 文「んちや勝公此方へ來い 勝「左様でございますか、それでは文太夫様御勘辨なすつて下さい」二人が枕を揃へて寢る 勝「文太夫様ッ 文「止せッ話をすると貴様一一中島様アなんて云ひやがつて俺ア氣味が惡くて爲やうがねゑ 勝「何だか知らねゑが後の方から女の頭でも出さうな氣がしますが御前様私と一緒に寢て下さらぬか 文「此野郎この暑いのに一緒に寢られるものか 勝「どうも戰慄しますが、戸棚へでも入つて寢ませうか 勝「それが宜からう」二人は臆病だから戸棚の中へ入つて、暑いのに戸を細目にして、そつと寢やうと思ふが、なか〳〵眠られない、すると頭の上の天井で、ガサ〳〵、ガサ〳〵 文「オイ何だね 勝「何でせう…… 鼠、あの畜生ッ 文「オウ驚いた實に今夜つて今夜は不思議で耐らない」とブル〳〵戰慄いて居ります、此方は中島宗四郎、御新造が 新「且那様、貴下の御好きな枝豆を茹で置きました、御酒を召上つて御寢になりますか 宗「ア、うれは結構どうぞ御酒を一つ願ひたい」心持が惡いから宗四郎一杯飲んで寢やうと思ふ、御新造が御膳立をなさる、枝豆の茹たのに、其他御肴を二三品 宗「ア、夏は此青い物が宜い、なまじな魚は御酒は美味くない 新「サア御酌を致しませう」

## 廣告

# 若しも余にして統監ならば（其四）

若しも余にして統監ならば、其爲さんとすることは澤山ある、尤も世事萬端言ふは易くして行ふことは難いものである、併し余が茲に言はんとすることは必ず行ひ得ることで而も又容易に行ひ得る範圍に於て之を言ふのである。

次に差當りなすべきことは**新聞政策**である、現代に於て何れの國の政府でも何れの時の內閣でも其施政を說明辨護する爲に**機關新聞**を持て居ることは普通の事實である、是は決して惡しき事でもなく又咎むべきことでもないのである、彼治者が新聞を以て輿論を喚起して治者に向ふ場合には治者も亦新聞を以て之に衝るの必要がある、此意味に於て統監府が其機關新聞**京城日報**を持て居ることは惡しき事でもなく又咎むべきことでもないのである、而れども機關紙たる京城日報は果して機關紙たる責務を盡くして居るだらふか、公平なる世論は此機關紙が創刊以來統監政治の爲に何程の貢獻をなしたるかと云ふことは殆ど疑問として居るのである、否彼は曾に貢獻をなさゞるのみならず寧ろ妨害をなして居ることが事實である。

彼の臺灣總督府は**臺灣日々**新聞を以て機關として居る、而して此機關紙運用の妙は時の總督故**兒玉**將軍及**後藤**民政長官に依りて盡されたのである、兒玉や後藤は臺灣日々新聞の經營に金を投ずることを惜まなかつたのである、從て紙面も大きく記者も手揃で眞に堂々として濶歩する雄姿を具へて居つたのである、關東都督府は**遼東新報**を南滿鐵道會社は**滿洲日々**を共に機關として作たのである、而して其主張や論議は都督府及滿鐵の御用たる臭味はあるが何れも新聞として堂々たるものである、之に比して**統監府**の機關たる**京城日報**は如何、其規模に於て其論議に於て決して前三新聞に比すべくもあらず、否一書生の經營する民間新聞にも大に遜色があるのである、人呼で京城日報の論議を**牛の涎**と云ひ或は**老婆の寢言**と云ふ、之れ必ずしも執筆者其人の罪にあらずして統監府其者が斯くならしむるのである、執筆者は單に牛の涎に似たる老婆の寢言に似たる論議を喜ぶ所の統監府の爲に代辨したるに過ぎないのである、眞に氣の毒なるは京城日報社である、彼は太腹なる總督府を主人とせず有力なる都督府若しくは滿鐵を後援者として居ないのである彼が統監府より受くる所の補助金の如きも極て僅少にして到底充分なる經營をなすことは出來ないのである加之彼は御用新聞の肩書を有する爲に冗費多く收支は償はず、其土地も家屋も既に**借金**の爲に**抵當**となり居るのである、彼は御用新聞の肩書を利用して所々に於て**萬餘の負債**をなし而も近き將來に於て其負債を償却する景色もないのである、斯る始末なるを以て京城日報が如何に統監政治を謳歌するとも世人は決して之に信用を置かぬのである、京城日報が今日斯る狀態にあるを前社長及前主筆の罪に歸するものもあるが、余を以て言はしむれば罪は傭人たる彼等に非ずして全くは主人たる統監府其者の罪であるのである。聞く新統監曾禰子は新聞政策として御用新聞も民間新聞も一視同仁たることを宣言したそうである、是は取りも直さず**伊藤**前統監の新聞政策を**否認**したるものである、併し一視同仁とは如何なる意味であるかは知らぬが、民間新聞と御用新聞とを**一視同仁**せらるゝことは決して喜ぶべきことでもなく、又事實に於て出來得べからざることである、伊藤前統監在任中に民間新聞の受けたる**迫害**は決して少くないのである、特に昨年の如きは各民間新聞に對し**停止禁止**の厄運は前統監より頻に投下されたのである、而も民間新聞は公平なる論議報道をなし統監政治の爲に貢獻したることは頗る偉大なるものであつたと思ふ、此間にありて獨り京城日報は何等見るべき貢獻をなさなかつたことは今日に於て既に世の**定論**となつて居る、諺に曰く「**居候**置いても合はず居て合はず」と京城日報は乃ち此居候である、居候では經營執筆者の爲にも益はないが、亦統監府の爲にも更に益はないのである。

若しも余にして統監ならば、此際京城日報に巨資を投じて眞に堂々たる機關新聞となすか、然らざれば直に廢刊して其愚擧たりしことを天下に謝して誤れる新聞政策を抛つことに躊躇せぬのである。

## 論敦電報

▲**日米大使乾杯辭**　倫敦に於ける米國獨立祭にて日米の兩大使は兩國親交の乾杯辭を述べたり（八日午前東京經由）

## 北京電報

▲**歸化不許可**　韓國人二名北京に於て歸化を出願したるも身元確ならず且つ手續に違法ありし爲め許可されず

▲**軍機大臣轉任說**　軍機大臣鐵良は民政部尚書に轉任し肅親王其後を襲がん

●**韓人の請願巡査**　巡査請願に就き當分の間は韓人巡査の請願は許さゞる事とせしが之を許す場合は日本人巡査二名の出願の

●**補缺選擧と有權者**　平壤居留民團の民會議員補缺選擧は不日執行せらるべき筈なるが選擧有權者は凡そ二百二十名內外なる

會社の收入統計は收入合計一一〇九七五一圓にして內本線一〇七五〇五八圓安奉線三

收入金三七七圓一日平均收入三六九九一圓にして內本線三五八三五圓安奉線一一五六

との說高し

▲**殼類輸出禁止**　沈琦龍總督は米價騰貴を理由とし十一日より米穀類の輸出を禁止する旨各國領事に通牒を發したり（以上八日午前東京經由）

## 東京電報

▲**中銀正副總裁**　中央銀行は十五六日頃創立委員發表さるべく其總裁は東拓と同じく軍人にして副總裁は美濃部俊吉氏を推すべしとの說あり

▲**吉長線と當局**　吉長線問題は兩國委員間に協定成りしも例により我政府は大讓步をなしたりと唯北京政府が如何の態度を保つや俄に安心し難き模樣なりと

▲**瀆職議員控訴**　神崎、横田、田村、江崎、安田、臼井の六名は本日控訴せり

▲**補欠選擧行惱**　補缺選擧に關し政黨界色めきたるも候補者は一萬圓を要する形勢なれば容易に立たんとする者なく各方面共行惱の姿なり

▲**振貝子愈歸國す**　答禮大使載振殿下の一行は愈今朝新橋發歸國の途に就かれたるが官民の奉送者盛んなり

▲**横濱市債盛況**　興業銀行にて引受け倫敦に於て發行したる横濱市債七百萬圓は非常の盛況にして應募者十倍の多數に達したり（以上八日午後發）

## 雜報

●**韓皇の復膳**　曩に旱魃を憂ひ民の痛苦を憫みて減膳を仰出されし韓皇には豪雨既に降り民憂稍解くるを得たる今日復膳あらせられて然るべしとの首相以下の奏言を容れられ六日以來典膳司に復膳の旨を仰出されたりと

●**韓皇の臨幸**　韓皇には十日午前十時三十分昌德宮出門閔宮內府大臣、李總理大臣、尹侍從院卿を隨へ統監邸に行幸伊藤太子大師及曾禰統監を訪問せらるゝ由因に當日は統監邸に於ける園遊會開催日なるも同會には臨御せられず只午餐を共にせられ正午還宮せらるべしと

●**地方費減免と訓令**　來る九月一日より實施さるべき地方費の課目、課率及納期等は直接人民と至大の關係あるが故に各道書記官に命じ財務監督局長と協議の上目下之れが調査を爲さしめ居れるが右地方費の內漢城府尹及觀察使が特別の事情ある者に對し減免又は延期を許すことを得べき賦課金及夫役の處分は最も愼重を要するに依り今般內部は府令又は道令を以て豫め之れが規程を設くべき旨漢城府尹及各觀察使へ宛て訓令を發したりと

●**伊藤公御禮參內**　伊藤公は韓皇統監邸臨幸の翌日即ち十一日午前十時昌德宮に參內御訪問の御禮を陳べらるゝ由

●**地方費と地方財産**　地方財産にして地方費に編入すべき分は主として郡守の管理する寄附金なりと云ふ

●**度量衡會議開會**　農商工部にて協議中なる度量衡法改正會議は昨八日も引つゞき開會したるが出席者は菊池局長、鶴岡、生田、大塚及三宅等の各書記官及事務官等なり

●**敦賀清津直通航路**　入京中の清津理事官中大路氏は敦賀と清津との間の直通航路開始の件を開會中の理事官會議に於て協議する筈なりと云ふ

●**面長職制の行惱**　面長職制は曩きに法令審査會に於て草案を起草し之れを閣議に提出中の處度支部より修正意見を提起したるを以て目下懸案中也

●**一銀定礎式擧行**　既報の如く第一銀行は十一日午後三時より新築定礎式を擧行さるゝ筈なるが當日は伊藤公曾禰統監も參列する由にて八日日韓官民の重なる人々へ案內狀を發したりと

●**親刈田大麥收穫高**　曩日親刈式を勵行せられたる東大門外東籍田親耕地に於ける大麥收穫高調査の結果に依れば一反步に於ける量は二石三斗七升麥稈重量は六十九貫三百匁なりといふ

●**韓皇下賜品の出來**　韓皇より伊藤公に下賜さるべき金製花瓶一對は漢城美術器製作所に於て作製中の所九日出來せしが右は宮中の催しにかゝる園遊會に於いて下賜あるべしと

●**京畿道郡守會議**　去る五日より京畿道水原に於て道內郡守會議を開きたるが鹽川書記官議長席に着き諮問事項に就き各郡守の意見を徵し地方費に伴ふ件を熟議すべしと

●**鶴原定吉氏と東肥**　歸朝後身の振り方に就て種々の風評を受けたる鶴原定吉氏は今回實業界を退隱せる澁澤男爵の後を繼いで東京人造肥料會社々長に就職するよし大坂の某氏まで通報ありたりと

●**新白銅貨鑄造停止**　新白銅貨の市中に散布せられたる總高は一百九十五萬圓なりしが此內引上たるもの百十七萬圓にして尙市中に流通せる高七十八萬圓あり近來僞造及變造貨の流通せる者甚だ多きを以て第一銀行にて以該白銅貨の鑄造は當分廢止されたき旨を其筋に協議したりといふ

●**送迎會出席申込數**　京城民團の主催に係る新舊統監送迎會に七日迄に參列申込者數五百名に達したるが十日迄には七百名以上に上るべき見込也

●**城壁取毀の經過**　本年一月より今日に至る迄取毀したる城壁は、城西小門附近に於て七十七間、全北南原間に於て六十間同道全州に於て百六十間及京城南大門附近にて七十七間なりと

●**大每社長の招宴**　大阪每日新聞社長本山彥一氏は懇親の爲め九日午後六時より當地の同業者を花月樓に招待し一夕の宴を開く由

●**中銀取極書の交涉**　既報の如く日韓兩政府の間に締結せらるべき中央銀行取極書は目下統監府と韓政府との間に交涉中なるが大分進捗し不日決定する由なるが創立委員の如きも之と同時に發表さるべしと

●**被害公金總高**　度支部の調査に依れば昨年中暴徒の爲めに掠奪せられたる公金總金高は三万四千五百餘圓にして是と關聯して死亡せし者三十六人負傷者百七十八人脅迫其他の難に遭遇せし者六十八人なりと云ふ

●**整理局と慣習調査**　豫て報導したる度支部臨時財産整理局の慣習調査は其后着々進捗し近々江原道方面へ二組の調査員を派遣し來月初旬迄には大概調査終了の筈にて出張員全部歸省の上は其の調査材料に據り土地調査の方針も決定すべしと云ふ

●**南韓鐵道と木浦**　南韓鐵道問題に關し木浦經濟會にては去一日同鐵道敷設に就て左の決議をなしたり

一、鐵道敷設請願に關し委員を京城に派遣すると

二、第二十六議會へ請願すると

尙ほ最後の目的を達するまでは屈せず運動を繼續する由なり

●**被害と弔慰金**　一般人民にして暴徒の爲に災を蒙りたるものに對しては二度に分ちて二十萬圓の下賜金ありたるとは既報の如くなるが面長又は面主人の如き公職にある者に對しては何等賑恤する所あらざりしに依り內部は是等の面長に對し一人二百圓、面主人に對し同じく百圓の割にて二千六百圓の弔慰金を支出したりと

●**中央農會支部發會**　韓國中央農會大邱支會は來る十日發會式擧行する由中村農務局長は臨席の上一場の演說を爲す筈なりといふ

●**各道警察署長任命**　既報の如く各道警察部長は警察署長の兼任を解かれたるを以て八日左の通り各道警察署長の任補ありたり

| | | |
|---|---|---|
| 補慶北慶州署長 | 警部 | 安東兼純 |
| 補咸南咸興署長 | 同 | 坂井勤 |
| 補江原春川署長 | 同 | 北村八洲仙 |
| 補忠北清州署長 | 同 | 三好長藏 |
| 補平北新義州署長 | 同 | 稻垣五郎 |
| 補慶南晉州署長 | 同 | 川崎猪鹿 |
| 補京畿水原署長 | 同 | 庄司政太 |
| 補忠南公州署長 | 同 | 下山鐵之助 |
| 補全北全州署長 | 同 | 細野權藏 |
| 補全南光州署長 | 同 | 牧瀨伊左衛門 |
| 補慶北大邱署長 | 同 | 天野章四郎 |
| 補咸北鏡城署長 | 同 | 平野源之助 |
| 補平南平壤署長 | 同 | 安東鉦次郎 |
| 補黃海海州署長 | 同 | 山田平三 |
| 補平北義州署長 | 同 | 小牟田十太郎 |
| 全北全州警察署勤務 | 同 | 三宅順三郎 |
| 慶北大邱警察署勤務 | 同 | 吉田季松 |
| 忠南公州警察署勤務 | 同 | 陳貞光 |
| 釜山警察署勤務 | 同 | 生沼義隆 |
| 忠南警察部勤務 | 同 | 宇田豊勝 |

●**天氣豫報**（自八日午後六時至九日午後六時）
北東の風曇後晴

●**各道農作狀況**（二）

▲**全羅北道**　全羅北道の農作狀況左の如し

麥は平年作の見込にて水稻挿秧は例年に比し多少遲れたり其原因は旱天打續き用水不足せし個所多きに依る全群車道中間驛たる白鷗亭より群山方面に亘る一帶の水田は水不足を訴ふる事殊に甚しく挿秧地域は僅に一少部分に過ぎず但し去一日の降雨は同地方に取り効ありし事と想ふ

●**贈呈品と藤公傳言**　京城民團にては伊藤公に古刀一振を贈呈すべき筈なりしも都合に依り虎皮に變更せしことは既記の如くなるが右は去る八日午前熊谷民長統監邸に趣き親しく公に面謁し感謝狀を添へて贈呈したるが其の際伊藤公には深く民團の厚意を謝し民團議員各位に禮を述べ呉るゝやう傳言ありし由なり

●**美術製作場觀覽**　伊藤公及曾禰統監は八日昌德宮に於ける送迎園遊會に列席の途次帝室美術品製作場に立寄られたり

●**救世新聞の發刊**　先般來入京中の救世軍にては本月三日より救世新聞なるものを發刊せるが右は八頁刷にして各信徒に配布する由

●**合格巡査着韓期**　先頃來岡山、靜岡、石川、宮城の各縣に於て施行せし韓國巡査採用試驗に及第せし巡査八十八名は十三日着韓の筈なり

●**學校生徒の送別式**　京城居留民團所屬の各學校及幼稚園を合し三千餘名の學童は伊藤前統監に敬意を表する爲め九日午前十一時第一小學校体操場に集合し送別式を擧ぐる由なるが伊藤公爵は正午宮中に參內の途次曾禰統監と馬車を駐め挨拶せらるゝ由なり尙當日は可成父兄の參列を希望すと

●**巡査卒業式擧行**　目下入所中の警察官練習生の卒業式は今九日擧行せし由なり

●**露語夜學會開始**　露國正敎會堂にて去る一日より露語夜學會を開きたるが敎師は西部仁達坊西門洞安基善にして生徒は二十名ありと

●**統監邸活動寫眞會**　伊藤公は八日午後八時半より統監府及所屬官廳の高等官同夫人を統監邸に招き活動寫眞會を開かるゝ由寫眞は伊藤公がわざわざ東京より携帶されたるものにて韓皇行幸の光景其他數十種ある由なり

●**ジョンス夫妻歸國**　神學博士ジョンス氏夫妻は八日午前南大門發西比利亞鐵道により歸國の途に就きたり見送人は俵次官佐竹秘書官ハリス博士木原牧師等なり

●**趙農相の水原行**　趙農相は降雨後の農況視察の爲め七日水原模範場に赴きたり

●**善行者の褒賞**　本年一月以降內部大臣より褒賞したる孝子一名慈善者二名へ此の程褒賞ありたり

●**大和町微笑會**　大和町三の二九の同會にては今九日例により講演ある由

●**鑛業權許可**　黑鉛平安北道泰川郡院面十四萬四千三百坪京城中部藤井太郎▲黑鉛同道興城郡沙器面一萬二千坪開城住松世勝獻李健赫▲黑鉛同道同郡龍延面九萬二千三百坪京城旭町上遠野栗

## 公人私人

▲大庭貫一（平壤民長）七日入京浦尾へ

▲藤原保次郎（駐韓憲兵隊付二等主計）同日入京山本へ

▲横山菊次郎（平壤郵便局長）同日入京浦尾へ

▲白石庄次郎（財務官）牧野旅館へ投宿中七日水原へ

## 近事片々

▲韓國に於ては頃者官吏執務改正の必要が唱へ始らるゝ是は是非共改善の必要がある

▲屬官輩は大廣間で簿書堆裏に汲々課長或は局長以上は一室に籠居して認印を押す

▲所謂捺印器械耳部下の監督指揮の任務は盡さず爲に怠慢となり事務の澁滯となる

▲之を矯正するには開放主義を取り長官も屬官も一室に於て事務に勵精するが肝要

▲上官籠居主義は所謂繁文縟禮となる須く此弊大風を打破するが執務敏捷法ぞかし

▲我保護政治の下には此弊風なきか作爲より多く此弊あるの觀あらむ打壞肝要也

▲伊公統監辭任機に條約改正は大事業也之が完成を期せんと云ふ老て益功名慾也

▲故に老公は靜に老後を休養するが如きことは出來ぬ豪傑と云へば豪傑稚氣脫せず

▲各國領事團も亦新舊統監の爲に送迎の大宴を開かんと借も宴會のみ續く事ぞかし

▲タイムス記者チロル氏北京觀を述て曰く淸國の將來は絶大無限なりと或は然らん

▲先年來遊せしときは大に趣きを異にす現在の北京は活氣何となく横溢の觀有と

▲チ氏の觀察甚だよし然れども淸國の近き將來は有望ならず絶大無限は遠き將來也

▲外務當局曰く安奉線問題は淸國反省せざれば顚末を發表し天下に是非を問はんと

▲今頃空威張りの元氣を出すは甚だ見苦し寧ろ是に省みて外交手腕の鍛錬こそ肝要

▲後藤遞相豫算緊縮主義に就て仲小路次官の專斷を憤りて沮止すと是れ當然の事也

▲仲小路次官遞信省に割據して常に專斷を擅にす爲に情弊絶へずと後爵猛斷をなせ

▲官僚の跋扈は遞省殊に甚だしと之を一新改善するは後爵の膽氣に依て始て行はる

▲堀田子爵終に宣言書を發して研究會を脫す而も中立團体を造らんと殿樣勿々やる

▲波斯に於ける露國の勢力は漸次樹立し今は殆ど露國の屬邦也是れ當然の傾向也

▲テヘランは今や戒嚴令の地となる然し波斯に就ては英國も別に故障はなかるべし

合に對し韓人巡査一名を許可する旨警務局より各道警察部に令達せり

……べしと云ふ

●六月中滿鐵收入　六月中に於ける滿鐵……二人之に對する金額二〇一七五四貨物……合計二九八八四二其金額九〇七六二五圓

# ▲相談の相談▼

（何んでも御相談に應じ升）

◎問　小生は過般の改革に依りて淘汰せられたる鐵道管理局の一雇員に御座候是れより先き愚妻は病床に臥し居り從つて費用多端にて借財等も少なからず有之少々は涙金も頂戴致したるも万事の始末をなすに於ては僅に五六十金を剩すのみにて病妻をかゝへ籠居候はゞ三ケ月さは支へ兼ね候につき以前多少經驗ある小商賣にても始めんかとは存じ候も何分資金不足にて意に任せず強健を誇りし身も日毎に憔悴を覺え候御名案も有之候はゞ御提示被下度但し其の儘御握り潰し相成候とも聊かも御怨みには存じ不申候草々（一弱者）

◎答　委細承知致しました、世帯の苦勞程厭なものはないと察し申ます、が、別段名案とては有りませんが、身を棄ててこそ浮ぶ瀬もあれで見榮とか外聞とかを棄てになつて一つ思ひ切つた仕事に從事なさるが好いと思ひます、座つて居て飯の食へる樣な商賣を初めるのには五六十金は餘りに尠ないが、身体を資本の中に繰入れてたやりに成る決心があらば五六拾金でも多過ぎる位だ、奮發なさい、百尺の竿頭更らに一歩を進めよ、と申し上げる（係）

◎問　僕は今或る會社で五拾圓貰つて至極閑散の地位に居るのだ、此頃或る友人が他の會社へ世話せうと云ふ、其の條件は「今居る所より給料は二十圓餘計に貰へる代りに仕事はズッと澤山ある此所には君は居なくてもよいが先方では君に來て貰いたいと希望してるのだが」と云ふのだつたが僕は斷らうと思ふのだ、理由はだね僕は現給で立派に衣食出來るのだもの二十圓位ひの違ひで好んで其樣な多忙の所へ行く必要を認めぬものな、が聊か不安の所がないでもないで相談する（一青年）

◎答　明々白々、相談も絲瓜も有りません、貴子の樣な引つ込み思案の人も少ない樣です、出來る手腕は使ふがよい社會の爲めです、働かずに食はして貰ふのは恩惠的です、多く働いて多く取れと勸めする、莫實貴子の頭腦で此の位ひの判斷がつかぬとすれば十圓の眞價もない（係）

## ●東拓理事の艶聞

▲主人公は李總理の甥　▲妻子を捨てゝ妾狂ひ

東洋拓殖會社理事にして漢城銀行總務たる韓相龍と云へるは現總理大臣李完用の甥にして曾て東京なる成城學校に學び士官學校に入る準備をなせしも都合に依り學を止めて歸韓し餘り多くの學問は無きも權門の親戚たるを以て前記の肩書を有するに至りしが殊に先般は七ケ條の建言とやらを宇佐川總裁に奉つて大に他の社員を戰慄せしめしとか然るに朝鮮人の常として收入の增すと共に以前の貧乏は打忘れ妻子のあるにも不拘此程より田舍生れなれ共容色優れたる桃花（二十）と云へる女を妾として抱へ内を外にして入浸り居れるが聞く處に依れば此桃花には二世と契りし情夫ありて韓相龍より手練手管を以て絞り上げたる金錢は直樣右から左と件の情夫の手に渡し韓が會社に出勤後は晝間も憚らず妾と件の情夫を引張り込み又韓が社用等を帶び他方にでも出張せし日には泊り掛けにて乳繰り合ひ旦那のれ人良しを笑ひ居れりとかさるにても喰物にさるゝ韓相龍こそ好い面の皮と云ふべし

## 紳士の遊興振

▲荒井賢太郎君

●●坂谷の頭で目賀田腹を●●●●極め後を荒井が締め括りするとは誰れやらが讀んだ狂歌である實に然りで君が次官たる度支部は初めから計畫を立てゝ仕事を爲て居る而して其仕事は全く前の狂歌が説明する如くである君は曾て大藏省の先輩局長であつて財政に於ては既に一家を爲して居ると云ふ事は目賀田顧問が其職を辭して後繼者を需むるに當り如何にしても君以外に他に適任者を見出さなかつたのでも知れる併し君もドチらかと云ば矢張り大藏一流の拾名取實派に屬し其風采の律義なる如く爲す事萬端が地味な方であるされば乙そ客も招き又招かれもして數多度樓上の人となるも未だ錬ひに錬ひし財政的手腕を花柳界に用ひた事はない、とは云へ相當に酒も呑めばビールも味ふ時に陶然として欄干に倚り月明に對すれば誰れに聞かすともなく「れしよえ高島れよひもないが」と柄に似合はぬ凄婉の聲を以て追分を唄ふ但し君が此蘊蓄を何れにて誰から學びたるやは甚だ疑問である……（投書歡迎）

次は市原盛宏君

●流連して説諭　仁川京町二丁目岡本組志村興吉（六十）と云ふは女房のあるにも不拘數日前より敷島郭内敷島本店に登樓し一昨夜まで流連し居たるが家には何と云ふ立派な女房のあるのに女郎屋に流連するとは余りだと昨朝二時頃何より敷島門前派出所に訴へ出でたるより警官は興吉を召喚し説諭を加へて女房に引渡さる

●詐欺師捕はる　仁川居住長崎縣生れ馬場磯二郎（二三）と云ふは數月前宮町釘本商店にて種々なる口實を設け石炭數十屯を詐取したる廉に由り懲役三ケ月に處せられ刑の執行猶豫を受け居たるが數日前又もや同家に至り英國領事館に石炭を納入するとて周旋料其の他と金三圓を詐取せし事發覺し再昨日捕縛せらる

●畜犬取締勵行　過般畜犬取締規則發布の結果飼主は金屬製又は皮製にて飼主の氏名を記入せる首環を施すべき筈なるが南部署にては愈々是れが取締を勵行する筈なりと云へば飼主は之を實行せざれば野犬と見做して撲殺さるべし尚又野犬撲殺希望者は此際同署に願出れば取調の上許可すと

去る五日の藝妓芝居に花形の身を以て多く端役のみを引受け大に一座の演藝を扶けたる花月の君江

## ●美當一調の開演

▲明十日より歌舞伎座に

既報の通り講演界の泰斗軍事講談家美當一調及び筑前琵琶の名手三好數馬外二三名の一座は愈々昨日當地に乘込みたるが今一日を準備に宛て明十日より間違ひなく旭町歌舞伎座に於て開演すと云へり何れ詳細は追て報導せん

●舊惡露見す　數年前仁川市中の雜貨店に炭酸紙の詐僞に罹かるもの頻々として起りしが仁川署刑事は逮捕の手續に及びたるが右犯人は大坂南區三丁目米田安次郎（三十）と云ふ前科三犯の惡漢にて當時風を喰つて大連方面に逃走し其の行衞を晦まし居たるが一昨日仁川署刑事が京町一丁目を密行中同人に相格酷似せるもの徘徊し居たれば直ちに引捕へ取調べを爲したる所前記安次郎なる事判明したるが安次郎は釜山、馬山等にても炭酸紙の詐僞をなしたる模樣あるより目下拘留に處し同地方に照會中なるが釜山、馬山に於ける被害者は早速仁川署に申し出づべしとなり

●下駄で擲り飛す　仁川濱町賭博師前川留三郎と云ふは中津屋止宿の長崎生れの中島藤吉と云ふに對ひ一昨日午後十時頃金二圓を貸せと賴みたる所貸さぬと答へたるより前川は無法にも中島を足駄にて顏其の他を毆打したるより仁川署に引致説諭を受く

●漁場荒し捕はる　仁川居住大坂生れの山本吉五郎（二十）と云ふは本月三日頃於青島漁場に据へ着けありし網繩八個を竊取し何知らぬ顏して仁川に來り居りしが此程仁川署刑事に取押られ裁判の上懲役三月に處せられたり

●一本折て一圓辨償　仁川京町二丁目船乘業出口磯太郎と云ふは一昨日午後二時頃桓觀なる韓人崔永範所有の林檎畑に無斷にて入り林檎の木一本を折りたるより訴へられたるが結局一圓の辨償金を出して事濟み

●馬の足の高飛び　仁川歌舞伎座にて目下興行中の愛澤一座の座員植原猛太郎と云ふ馬の足は一昨日出奔大連に高飛びしたり

●敷島遊廓の檢梅　仁川敷島の檢梅は一昨日勵行せられたるが總員四十九名の中病氣不參の者六名有毒者一名ありたる外他には別條なかりし由

●三越の中元賣出し　當地本町三越呉服店出張所にては中元暑中贈答品として呉服物、木綿物、雜貨類を陳列し盛んに賣出を開始したり詳細は廣告欄にあり

●三日月湯の改築　旭町三丁目なる三日月湯は從來の浴槽にては非常に手狹を感ずるに至りたるを以て今回更に同町に家屋を新築して規模を大にし浴槽を改善し器具を精撰し浴客をして遺憾なからしめんと準備中なりしが愈落成したるを以て昨八日開湯をなしたる由

## ▶平民文庫◀

▲公益の爲めならば他人の名譽を害ふも咎むに足らずとは實に情なき遺憾なる言葉を聞くもの哉是等の投書は世人を誤るものなり一面より云へば誹謗を奬勵するものなり中傷を挑發するものなり蔭に隱れて他人の名譽を毀けて公益の爲めなりと云ふは實に鬪々しき極と云ふべし（はの字）▲紅梅燒屋が南山町の奧から本町一丁目に發展したとの噂を聞いたから行つて見た成る程大發展だ女將の君其の昔の妖艶の嬌態はないが未だ却々に棄て難い趣きがある紅梅燒よりはれ世辭が嬉りものらしい、樽を見ても醉ふ人があると云ふ世だ顏見てたんのうする人もあるだらうと思ふと御亭主も心配だらう（村崎生）▲長谷川町太平町照義門通りの有志者に注告す適當の地に稲荷樣か八幡樣かを勸請して五の日十の日に緣日を開いたらよろしからう（太平町人）▲汚物掃除の桶に蓋を附けてないから臭氣を放散して困ります一般に嚴達して下さらぬか（れ顯申生）▲明治町の衛生床は又此の頃客扱ひ……ちやない頭扱ひが惡くなつた樣だ注意し玉へ（敢切男）▲明治町の大阪屋の爺つあん確乎爲なくちや破滅の基だせ酒ばかり食つて居ちや娘の子がだいなしに成るぜ（買物男）▲上京中の地方官で有名な博徒の宅に止宿して居る人があるが身分に係りは致しませぬか餘計なことだが心配です（宿屋の下女）▲警察官中に交迭あるべしと報ずる平民文庫一投書家の先見の明に驚く若くは其の交迭の豫想を發表せられよ至囑（一警官）▲徐々雨期に入るでしよが龍山市街は又々水浸しになる樣なことは無いでしよね若し其用意がしてないとすれば馬鹿だ下らぬ問題で騷ぐよりは一つ此實について努力するがよい城壁でも拂ひ下げて防水堤でも築かないかね ドウも私は水浸しは虫かん（龍山の平民）▲誰れでも餘り好きなものはありますまいよ（小僧）▲雨が降らなければ凶作たらうと心配になる降ると鬱陶しい人間と云ふものは隨分我儘なものだと自分ながら感心した、神や佛が愛想を盡かすのは尤もだ（人間）▲ヨボ化したる余はビンデに食はれるのは驚かぬが眞瓜の食へないのには驚くよ（准朝鮮人）

●配達出拂　午後七時四十分

●新聞料 一枚金三錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金十錢
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢▲二號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新報社 京城西門通小門通 電話六六三番